る。かなりのアメリカ人が上司に対して忠誠心を持っているのは驚きである。これは日本人より高い数字である[5]。「全然忠誠心を持っていない」という者は女性の方が男性の3.9%に対し14.1%と多い。

では「あなたは上司を尊敬しますか」という質問に対しては「大変尊敬する」と回答した者が38.6%もいる。「少し尊敬する」者も合計すると79.1%である。「全然尊敬しない」者は6.4%である。男女別だと男性の方が上司を尊敬する者が女性より少し多く、全然尊敬しない女性は8.7%いるが男性は4.7%である。

次に「あなたは上司の命令や指示になぜ従いますか」という質問に対し「上司を尊敬するから」という回答が最も多く33.2%を占め、2番目に多いのは「従うのは義務だから」という回答で31.8%である。「上司は命令する権利があるから」という回答は15.5%である。男女別にみると、女性では1番目の理由は義務だから従うというものが最も多く32.6%であるが、男性の場合には尊敬するからが最も多く34.6%である。女性の2番目の理由は尊敬するからであり、男性は義務だから従うである。女性の3番目の理由は「上司は専門家だから従う」であるが、男性は「上司は命令する権利があるから」である。

「上司が職場にいなくて誰がどの程度仕事をしたかわからない場合でも一生懸命働きますか」という質問に対し、「ベストを尽くす」という回答が44.5%を占め、「できるだけ一生懸命働く」という回答が50%を占めるのは驚きである。この質問に対する回答に男女差はみられない。しかし、「どの程度働くのが望ましいと思うか」という質問に対しては「仕事は最善を尽くす」者が46.8%いるが、一方で「自分の仕事をうまくこなす程度に働く」という者が51.4%いる。この最善というのは「健康を損なわない範囲内で自分の仕事が終わったら他の人の仕事も手伝ったりして最善を尽くす」である。男女別にみると女性の方が最善を尽くすという者が男性より多く、男性は自分の仕事をうまくこなす程度に働くという者が女性より多い。

また、仕事をするのは会社や同僚に対する責任感からする者が最も多く39.5%を占める。次に多いのは昇進するための29.5%である。3番目は収入のためである。この回答に関しては男女差はまったくみられない。

「上司はあなたの仕事振りを正確に評価できると思いますか」という質問に対し、男性は「まあまあ正確」という回答が最も多く34.6%であるが、女性は「かなり正確」という回答が最も多いという差がみられる。その反対に「あまり正確ではない」と「まったく正確ではない」を合計すると男性は21.3%と女性の15.3%より多い。男性の方が女性より正確に評価されていないと感じているようである。

「仕事の方法を変更する時には上司はどうすべきだと思いますか」という質問に対しては「まず最初に部下の意見を聞いてから決定すればよい」という回答が最も多く70%を占める。「上司は権限があるのだから自分で決定すればよい」という意見や「上司が決定しその後で部下の協力を依頼すればよい」という回答はほとんどない。日本では意思決定に稟議制度が使われ部下たちも参加するが、アメリカでは意思決定は上司の仕事であり部下たちはそのような責任のあることはしたくないと考えているようである。

「上司に仕事に関係ある個人的な問題を相談しますか」と質問したら、「その問題が非常に重要なら相談する」という者が最も多く31.8%を占める。ほとんどの者は相談するが、全然相談しない者も8.6%いる。相談しないのは女性の方が多く12%を占めるが、男性は6.3%である。男性は2番目に「かなり重要なら」という回答を選択しているが、女性は「緊急なら」という回答を選択している。

「あなたは上司と意見が合わない場合には反対を面と向かって表明しますか」という質問に対して「全然躊躇しないで反対する」という回答が最も多く39.1%を占める。さすがにアメリカ人は相手が誰であろうと自分の意見をはっきり言う人が多いのには感心する。次に多いのは「少し躊躇する」という回答で29.1%である。「躊躇する」という者も26.8%いるのである。合計すると過半数の55.9%のアメリカ人はやはり少しはためらうようである。相手が上司だとはっきり反対意見を表明

5) 川久保美智子『日米社員の意識比較』講談社、1991年。